

第3回日本近視学会総会のご案内



開催日程：2021年5月22日(土)・23日(日)
開催場所：赤坂インターシティコンファレンス
演題登録締切：2021年2月10日(水)11:00
事前参加締切：2021年4月12日(月)17:00

主なプログラム

招待講演1：「Novel Anti-myopia Eye drops」
Suh-Hang H. Juo 教授 (Inst of New Drug Development, China Med Univ, Taiwan)
招待講演2：「Low-concentration atropine for myopia control」
Jason C. Yam 先生 (The Chinese Univ of Hong Kong)
シンポジウム1：眼疾患における近視の影響
シンポジウム2：近視の疫学と進行予防
教育セミナー：近視外来の Update

フォトアルバム



2月 Jakarta Eye Center 学会



6月 WOC2020 Virtual



11月 臨眼 2020 ドライアイシンポジウム

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<12th Eye Center Summit>

2021年4月17日(土)17:30~20:00(予定)
場所：丸ビルホール&コンファレンススクエア 7F「丸ビルホール」
会費：2,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

講演1「ドライアイ診療、最新の進歩」

島崎 潤 先生 (東京歯科大学市川総合病院 教授)

講演2「OCT、OCTA など最新の検査器機から学ぶ黄斑疾患の病態と治療戦略」
辻川 明孝 先生 (京都大学大学院医学研究科眼科学 教授)

<第11回東京多摩眼科連携セミナー>

2021年5月15日(土)14:30~17:00 場所：杏林大学 大学院講堂
会費：1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

「精神神経関連(仮)」渡邊 衡一郎 先生 (杏林大学医学部精神神経科学教室 教授)

編集部からのコメント

COVID-19 感染拡大防止のため、病診連携などご配慮をいただきありがとうございます。大学病院、医学部教育もコロナの影響を受けて、毎日変動する状況対応に追われています。こんなときこそ、医療に従事する初心を思いかえしながら、各自の欲を抑えて、皆が協力しあうことの大切さを感じています。石田講師をはじめ新入局員もアイセンターに新鮮な風を吹き込みながら張り切っていますので、患者様のご紹介などをよろしくお願いいたします。(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 60
Autumn
2020

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆学内講師就任の挨拶(石田 友香)<1-2> ◆第3回日本近視学会総会のご案内<4>
- ◆眼窩外来の紹介(斎藤 恒浩)<3> ◆フォトアルバム<4>
- ◆新入局員の挨拶(高橋 綾)<3> ◆イベント情報<4>
- ◆編集部からのコメント<4>

<執筆者:括弧に明記 production:岡田アナベルあやめ、中山真紀子、富田茜、仲島みずき、草壁裕子>

学内講師就任の挨拶(石田 友香)



2018年4月から杏林大学に入局させていただき、今年4月に学内講師に就任いたしました石田友香です。平成16年に東京医科歯科大学を卒業し、スーパーローテーションののち、平成18年に医科歯科大眼科に入局しました。1年の大学での研修ののち、2年ずつのローテーションで、都立駒込病院で白内障手術と網膜硝子体、都立大塚病院で未熟児網膜症、公社荏原病院で一般眼科と網膜硝子体を学び、週一回大学のメディカルレチナ外来で臨床研究を行っていました。二人目の子供を妊娠しているとき、都立病院での常勤での仕事と二人の子育ての両立はもう無理なのではないか医局をやめようとしたところを、当時の望月教授が、学生に戻って勉学を積みながらキャリアをつなげなさいと大学院生の席を用意してくださり、次女の出産時の産休取得に合わせ、医科歯科大の大学院に入学しました。

大学院の4年間は子育ての傍ら、加齢黄斑変性症と長寿遺伝子 Sirt1 の関連について基礎研究、強度近視外来と黄斑外来における臨床研究を学びました。時には当直の先生に子供をみてもらいながら細胞の培養液を替えたことさえもありましたし、赤ちゃん連れでのカンファレンスや勉強会の参加も当時の大野教授が許してくださり、医局全体に応援してもらいながら乗り越えました。子育てと仕事は、仕事の仲間、夫、両親、夫の両親、保育園の先生方、ママ友、すべての周りの人たちに助けられました。いつか力をつけたら、自分よりも弱い立場にある人に必ずこうやって手を差し伸べられる人間になろうと、その時に思った気持ちは、今もずっと続いています。

大学院の卒業後は医科歯科大の助教となり、網膜硝子体班で臨床復帰しました。出産や子育て期間や基礎研究の期間もあり、さらに私の実力も不足し、目の前の患者さんに選択しうるなかでもっともよい診療を提供できているのだろうかと思ひ、臨床に行き詰まりを感じる一年でした。そんなとき、夫が突然、「杏林に国内留学してブレイクスルーしたほうがいい、若いころの夢だったじゃない」と言ってくれました。通勤に1時間かかるし、夜も遅いだろう、休日出勤も多いだろうと、密に諦めた夢を夫はわかっていたらしく、そう言ってくれたのでした。こんなに学年が上がってから来られても杏林の先生たちもやりにくいのでは?とか、家庭との両立ができないのでは?など逆風もありましたが、親や夫の家族も背中を押してくれ、大野教授と平形教授の許可が得られ、VRフェローとして国内留学させていただくことになったのです。



VR班集合写真(2018年当時)

上段左から石田、加藤悠、佐野公彦、江本宜暢

下段左から北講師、厚東講師、平形教授、井上教授、伊東非常勤講師、廣田講師

本当に感謝しています。また、ナース、ORT、事務というコメディカルスタッフとドクターの関係がとても良好な伝統のためと思いますが、コメディカルスタッフの助けてくれる部分がとても大きく、働きやすい環境でした。そして、なにより、患者さんにとってもよい選択ができる環境にあるということが、今まで自分が苦しんでいた悩みの解決につながっていき、心が軽くなりました。

しかし、2年の期間が終了するとき、医科歯科大の働く環境と自分の家庭の環境と合わなくなってしまい、迷惑をかけないためにも退局せざるを得ない状況になりました。この先が全く見えないところを、今度は平形先生が手を差し伸べてくださり、他の皆さんも杏林にいればよいよと言ってくださり、杏林アイセンターの仲間と正式に入れていただくこととなり、本当にありがたいです。

現在は、VRの一員として外来や網膜硝子体手術がメインの仕事ですが、そのほか、教育などにも力を入れているつもりです。

杏林大学では、専門医制度の変更に伴い入局者数が安定してきたことから、新しくレジデント教育制度が始まり、その教育担当者として働かせていただいています。何が正しいのかわからないし、きっと正解がないことなのだと思いますが、夢をもって入局してきた若者が夢を追いかけるように環境を整えてあげることが自分の仕事だと思っています。いろいろな変化は、混乱を生んだり、転ぶこともあります。講師以上のスタッフや助教の先生方に色々提案し、お願いし、皆さん心配もありながらも、ご協力いただき、なんとか改革が進んでいる状況です。また、突っ走ってしまう私を、止めて、丸く納めてくれる仲間たちもできて、その存在がとてもありがたく、だんだんとバランスがとれてきているのだと思います。

また、女性医師支援委員というのもさせていただいておりますが、そちらも他科の先生の面接などもしますが、自分の後ろの道を歩く後輩に、家庭の幸せも、仕事の充実もどちらもあきらめないでほしいから、精いっぱい応援し、そのシステムも少しずつ整えていけたらよいなと思っています。

4月からは、さらに4年からの臨床実習担当となり、コロナ禍での患者非接触型実習を始めました。思いっきり勉強すると、学問の面白さがわかり、疑問がわけば、そこから学問の冒険が始まると思います。学生さんが、少しでも、そうやって学習する楽しさを発見してくれたらよいなとカリキュラムを考えております。

40歳をすぎても、まだ、医者としても、親としても、人としても、不完全で、悔しくて涙が出る日が今でもあります。でも、頼ってくれる患者さんがいて、支えてくれる家族がいて、一緒に頑張れる仲間がいて、引き上げてくれる先輩方がいるから、一生懸命働き、学びつづけることができます。そして、少しずつでも、自分の周りの人に手を差し伸べて、今まで助けてくれた先輩方への感謝を形にしていけたらよいなと思っています。

これからどうぞよろしくお願いいたします。

杏林に来てからは、VRの先輩方だけでなく、他の分野の先生方もとても熱心に指導していただきました。VRは、伝統を感じるVRフェロー教育が大変厚く、自分の中の進歩をはっきりと感じ、忙しいけれどもわくわくする毎日を過ごすことができました。一流の臨床家の中にいると、自分が小さく不甲斐ないものに思える日もありましたが、その悔しさこそが学びの原動力になりました。

杏林大学の医局の若い先生方はフェローの受け入れに慣れていて、私のような部外者を驚くほど爽やかに受け入れてくださり、まったく寂しい思いをせずに過ごせて、

またCovid-19感染拡大は、甲状腺眼症においても影響がありました。かつては別名、悪性眼球突出症ともいわれ、兎眼性角膜障害から角膜潰瘍、眼内炎、さらには眼窩蜂巣炎から頭蓋内感染と進めば生命を脅かすこともあった疾患です。現在ではステロイド・パルス療法や放射線外照射療法などによって治療可能な疾患となりました。しかし今回の感染拡大による影響で、免疫抑制療法による感染や重症化のリスクが一段と上がるかもしれず、ステロイド・パルス療法を施行すべきか悩むことも度々ありました。

またCovid-19感染拡大は、甲状腺眼症においても影響がありました。かつては別名、悪性眼球突出症ともいわれ、兎眼性角膜障害から角膜潰瘍、眼内炎、さらには眼窩蜂巣炎から頭蓋内感染と進めば生命を脅かすこともあった疾患です。現在ではステロイド・パルス療法や放射線外照射療法などによって治療可能な疾患となりました。しかし今回の感染拡大による影響で、免疫抑制療法による感染や重症化のリスクが一段と上がるかもしれず、ステロイド・パルス療法を施行すべきか悩むことも度々ありました。

今日のオルビタ外来はほぼ通常に業務をしています。今後再び感染拡大することなく収束に向かうことを祈念し、尽力させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日、再び感染拡大することなく収束に向かうことを祈念し、尽力させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴
2004年東京医科歯科大学医学部卒業
2004年東京医科歯科大学 初期研修医
2006年東京医科歯科大学 眼科入局 後期研修医
2007年から2013年、ローテーターとして、都立病院3箇所で研修、勤務
2013年東京医科歯科大学 大学院入学
2017年大学院卒業
2017年東京医科歯科大学 助教
2018年杏林アイセンター 国内留学 VRフェロー
2020年杏林大学 講師

眼窩専門外来の現状について(斎藤 恒浩)



第8回日本涙道・涙液学会総会にて。
左から今野公士、斎藤恒浩、柳沼重晴

眼窩専門外来(通称;オルビタ外来)は、20年前のアイセンター開設と同時に忍足浩先生によって発足しました。現在は非常勤の今野公士先生と柳沼重晴先生が、常勤の斎藤を補助するという3人体制で診療を行っております。当外来は他専門外来と異なり、極めて多岐に渡る症例を専門としております。特に鼻涙管閉塞・涙囊炎、涙腺炎、涙腺腫瘍などの涙道疾患と眼瞼下垂・眼瞼内反および眼瞼腫瘍などの眼瞼疾患に注力しております。他に、甲状腺眼症、眼窩腫瘍なども扱っております。その中でも涙道手術は当専門外来の特色の一つですが、今回のCovid-19感染拡大においては、“涙道手術が鼻腔内エアロゾル

を手術室内で拡散させるリスクがある”ということで、一時全て中止としておりました。その後、術前日にPCR検査を行い、結果が陰性の患者さんに対してのみ手術を行う運びとなりました。現在は涙道内視鏡下涙管チューブ留置術(日帰り)と涙囊鼻腔吻合術(入院)は再開しております。また、眼瞼下垂や内反症手術においては、4、5月の頃も通常に施術しておりましたが、感染拡大の影響を受けて、患者さんご自身からキャンセルもしくは延期の申し出が多く散見されました。現在はこれらの手術件数も戻り、また多くの患者さんに治療ができるようになりました。

またCovid-19感染拡大は、甲状腺眼症においても影響がありました。かつては別名、悪性眼球突出症ともいわれ、兎眼性角膜障害から角膜潰瘍、眼内炎、さらには眼窩蜂巣炎から頭蓋内感染と進めば生命を脅かすこともあった疾患です。現在ではステロイド・パルス療法や放射線外照射療法などによって治療可能な疾患となりました。しかし今回の感染拡大による影響で、免疫抑制療法による感染や重症化のリスクが一段と上がるかもしれず、ステロイド・パルス療法を施行すべきか悩むことも度々ありました。

今日のオルビタ外来はほぼ通常に業務をしています。今後再び感染拡大することなく収束に向かうことを祈念し、尽力させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



第8回日本涙道・涙液学会総会にて
ポスター発表

アイセンター新入医局員の紹介



本年10月よりVRフェローとしてお世話になっております、高橋綾と申します。

これまで東京歯科大学市川総合病院にて角膜移植などの前眼部診療に携わっていました。疎遠であった網膜硝子体分野に興味を持ち、勉強したく杏林への赴任を希望いたしました。非常に恵まれた環境で学べることをとてもうれしく思い、自身も貢献できるように積極的に学んでいきたいと思っています。何卒よろしくお願い申し上げます。